

稲刈り後は溝掘いをすぐに実施しましょう！ 早期排水対策の徹底を！

1. 排水対策で収量・品質UP！

麦作にとって、排水対策は最も重要な技術です。播種時の土壌水分を低くすることで、①播種・出芽の精度向上、②除草剤の効果安定、③麦の生育改善や収量・品質の向上といった効果が期待できます。

2. 溝掘いをいち早く行い、水田を乾かしましょう！

稲刈りが終わったほ場から、順次溝掘りを行いましょよう。播種時期を見据え、10月上旬までを目途に作業を行います。

ただし、ほ場表面の滞水が目立つ場合、無理に機械作業を行うとほ場が荒れるため、まずは中干し溝等を利用して表面滞水の解消を促しましょう。

特に本年は、曇雨天が続いた影響で水稻の収穫時期が例年よりも遅くなっており、麦の播種時期まで十分な時間が取れない恐れがあります。稲刈りが終わったほ場は、乾くタイミングを逃さずすぐに排水溝を設置し、スムーズに播種が行えるよう準備を進めましょう。

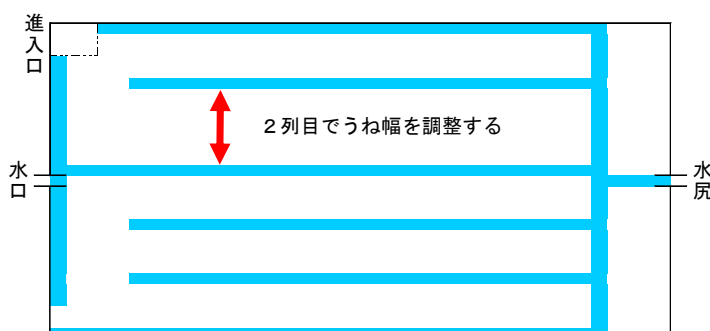
3. 排水溝(明きょ)は水尻まで流れるように！

①溝のつなぎ目は連結する②水尻に向かって深くする等で、水口から水尻までスムーズに排水されるようにしましょう。暗きょ排水と補助暗きょや心土破碎を組み合わせた排水も効果的です。



オーガ式溝堀機等で
しっかりした排水溝を作る

一般的な優良施工事例



排水溝は尻水戸にしっかりつなぐ！
(溝の深さは15cm以上)